

# みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

## 人になれ 奉仕せよ

聖句：	はじめに神は天地を創造された。(創世記 1章1節)
保育目標：	<ul style="list-style-type: none"> <li>0歳児 ・沐浴をして暑い日々を気持ちよく過ごす。</li> <li>1歳児 ・保育者と一緒に水、土、砂などに触れて遊ぶ。</li> <li>2歳児 ・友達に興味を持ち、真似をして遊ぶ。</li> <li>3歳児 ・全身を使って遊びを楽しむ。</li> <li>4歳児 ・友達と一緒に夏の遊びを楽しむ。 ・新しい事もやってみようとする。</li> <li>5歳児 ・友達と一緒に夏の遊びを楽しみ、交わりを深める。 ・神の創造された広い自然界に目を向ける。</li> </ul>

6月1日より、幼児クラスは分散登園が始まり、全学年登園、学年別登園、そして給食やお弁当を食べての降園と少しずつですが、園生活を過ごせるようになってきました。乳児クラスも、保護者の方のお仕事の状態とを見合わせながら園に登園してきています。久しぶりに会う友だちや初めて会うともだち、先生、それぞれ形は違いますが、みんなの目はキラキラと輝いていました。きっと不安はあったかと思いますが、心のどこかに「ワクワク感」があったのでしょうか。初めてお子さんと離れる保護者の方にとっても「不安や心配」はあったかと思いますが、そんな保護者の方の気持ちもとても伝わってきました。少しでもお子さんの姿が分かるよう私たちもお声を掛け、一緒に子育てをしていきたいと思っています。そして、子ども達の新しい一歩を共に共有できることは恵みであり神さまに感謝しています。

2F アトリエは、いつも子ども達が様々な素材に出会い、心が動かされ「ワクワク感」を感じながら想像力を働かせ物事に集中して取り組んでいる場の1つです。先日、4歳児の男の子が友だちと2人で話しながら何かを作ろうとしていました。耳を澄ますと「そうだ！お弁当つくろう」と色画用紙を手にとり、丸めたり切ったり、貼ったり。もう一人の子は、赤色画用紙を手にとり、ハサミでチョコチョコキ。小さく切った赤色画用紙を丸めて「うめぼし！」と。見ると、親指位の大きさ。それでも言われると、梅干しに見える不思議さ。「ごはんつくらなきゃ！」と言って大きな白色画用紙を持ってきて真ん中に丸めた赤色画用紙の梅干しを置き、私に見せ満面の笑顔。その子の目は一瞬にしてパツと輝きに変わりました。きっとその子がイメージしていたものが目の前に出来嬉しかったのでしょうか。私も出来上がった「日の丸弁当」に笑みを浮かべました。と同時に、この子は「いつ日の丸弁当と出会ったんだろう。」「手作り弁当かな」「美味しかったのかな」等。1つの作品が出来るまでに、その子が今まで経験してきたことや感じてきたことが形になっているんだと再認識させられました。『こどもの目が輝くとき』(和久洋三著)のなかに、「感じる心 考える力」についてこう書かれてありました。

『創造活動はまず何かを感じとることから始まり、感じとるのに「感性と感覚」が必要であると。例えば食事をすると「からい」「にが」「しょっぱい」「甘い」など具体的な性質や特徴を感じとる、つまり味覚・嗅覚・触覚・聴覚・視覚の5つの感覚器官で感じとる感覚。そして「おいしい」とか「まずい」とかそこに味の調和、不調和を感じとるのが感性。幼児期に感性を豊かにしないと豊かな人間性を育むことはできないと言われているのはなぜか。それは、感性は感動を呼び起こし、知的好奇心を目覚めさせるからです。例えば美味しい物を食べて「おいしい！」と感動します。「どうしてこんなに美味しいんだろう」と知性が働き始めます。「なんで」はあとからで、まず「感じる」というところから人間の脳は働き始めます。その為に、この感じる心を豊かにすることが大切だと。「感じる心、これが感性です。」そして子どもの感性を育てる為には調和のとれたものに出会わせること。調和のとれた物(美味しいもの、いい香り、美しい音楽、美しい色や形、心地よい感触、そして豊かな愛情を惜しみなく与えること)を感じるようになる、不調和のものに対しても敏感になるからです。感性が豊かになると感動が沢山生まれ、この積極的な心情がやる気を起こさせるので感性を豊かにすることが大切です。』

長い人生のなかにおけるこの乳幼児期を六浦こども園で過ごす子ども達が、沢山の調和のとれたものと出会い、感性が豊かに育まれていくよう保育に臨んでいきたいと思っています。

副園長 松下 成美